



TITLE:

物性基礎論II: Brain(サブゼミ, サブゼミの報告, 1985年度物性若手夏の学校報告)

AUTHOR(S):

池上, 高志

---

CITATION:

池上, 高志. 物性基礎論II: Brain(サブゼミ, サブゼミの報告, 1985年度物性若手夏の学校報告). 物性研究 1986, 46(3): 345-346

ISSUE DATE:

1986-06-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/92062>

RIGHT:

でした。

最後に、大変お忙しいにもかかわらず、講師、発表者を引き受けて下さった、元屋先生、小林さん、川越さん、及び御協力下さった皆様に心からお礼を申し上げます。

(世話人 埼玉大・理 稲生俊雄)

## サブゼミ 「格子欠陥」

### プログラム

「荷電粒子の金属中での拡散」杉本秀彦(中央大・理工・物理)

「固体表面における低速陽電子」石井 晃(早大・理工)

「金属中の正ミュオンの拡散」門野良典(東大・理・物理)

第1日には、杉本先生に水素同位体、正ミュオン、陽電子の拡散について講演していただき、2日目には石井氏、門野氏により陽電子と正ミュオンについての最近の進展を話していただいた。

初日の夜にはコンパを催し他大学の人々との交流を深めた。

最後に、杉本先生、石井氏、門野氏にこの場を借りて御礼申し上げます。

(世話人 筑波大・物質 上殿明良)

## サブゼミ 「物性基礎論Ⅱ」～Brain～

**Brain**は、参加人数40名。——1日目はおとなしくチューターの自己紹介から始まった。はじめに池上はスピングラスの理論と脳の問題について簡単に紹介し、つづいて津田氏が生理学的見地から脳の構造を解説、奥村女史が最近の彼女の人工知能の研究について話をし、池田氏とやりとり。ここでコーヒータイム。

この後、ゼミは会場を狭い教室から夏草生い茂るゲレンデに所を移し、小グループに分かれて話し合いが行なわれた。松本氏のまわりでは氏の粘菌の研究について、池上のまわりでは最近の神経ネットワークモデルについて、津田氏・金子氏のまわりでは脳におけるカオスの役割、はてはガイア理論にまで話は及んだ様である。

1日目の夜はコンパもありあがり、脳にアルコールを与えるとどのようなレスポンスがみられるかの研究も行なわれた。

2日目はリフトを使って高天ヶ原の上まで上がり、全員による話し合いが行なわれた。池田氏から脳の何を研究するのかという質問がなされ、脳をみて何かすぐれた回路とかをつくろうという工学的発想を元にする意見、人間の脳・知性というものを理解したいという意見が出された。金子氏が最近の氏の研究より「乱流のモデル→脳」の話をし、乱流は知性をもつか、という事に話はすすんだ。その後、猿の自己記述能力についてやアメフラシのシナプスの話 etc. 広範囲に渡り論議はさかんに行なわれた。また今後の脳の研究方向として、脳と解剖学的に同じネットワークでくみあわせたマップで脳と同じ機能をもつものがつくれたらそれで脳を理解したとするのか、全くちがったモデルで脳と同じ機能をもつものをつくり上げてしまうというのはいいか、という議論は興味深いものであった。

研究対象がまだ見つかっていないM1も多く参加していて、研究の自由さ・面白さをいくばくか見せたのではないかなと思っている。日本でも今後、物理で脳の研究がさかんになる事を期待しつつ楽しい2日間のサブゼミは幕を閉じた。さいごに、いそがしい中参加して下さったチューターみなさまにあつくお礼を申し上げます。  
(世話人 池上高志)

物性若手夏の学校'85 準備局

校長	古谷野有 (物理工学系, 田崎研)
教頭	岩住俊明 (物理学系, 松浦研)
	安岡 宏 (物理工学系, 新井研)
	宇治進也 (物理学系, 長沢研)
	梅津郁朗 (物理工学系, 新井研)
	堀江 靖 (物理学系, 檜原研)
	浅井孝祐 (物理工学系, 新井研)
	斎藤和夫 (物理学系, 物性理論研)
	関口敏宏 (物質工学系, 中尾研)
	松石清人 (物理工学系, 新井研)